

高品質生産を目指した水稲良食味品種「あさひの夢」の移植時期及び刈取時期の設定

[要約]

水稲良食味品種「あさひの夢」の高品質生産のための移植時期は、出穂後20日間の平均気温が26.5未満になる時期を目安として水稲適作期生育予測システムにより求める。また刈取時期は出穂後の積算気温が730～880になる時期である。

総合農林試験場作物部栽培技術科	専門	栽培	対象	稲類	分類	普及
-----------------	----	----	----	----	----	----

資料名 平成12年度九州地域試験研究成績・計画概要集(水田作)

[背景・ねらい]

県内の水稲早生品種の主要産地では出穂期に高温に遭遇すると品質が低下しやすい。そのため、出穂時期が高温に当たらないように移植時期を設定する必要がある。そこで高温登熟による品質低下を防ぐ出穂期の早限並びに低温による登熟不良を防ぐ晩限を解明し、移植時期を明らかにする。

また「あさひの夢」の刈取時期は明確な判断基準がないので、刈取時期別の収量・品質を検討し刈取時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 移植時期別の検査等級は、6月4半旬以降で高い傾向を示す(図1)。
2. 品質低下の主な要因は背白粒の発生であり、背白粒の発生が多くなると検査等級が低下する(図2)。
3. 出穂後20日間の平均気温が26.5を超えると背白粒が多発する(図3)。
4. 移植時期が7月5半旬以降では、品質が低下し、収量も低下することがある。登熟期間の気温の低下により登熟不良が発生するとは限らない(図4、図5)。
5. 刈取時期別の検査等級は出穂後の積算気温が660～1,050で高く、このときの黄化籾割合は10～95%である。特に検査等級が1等中以上となるのは出穂後の積算気温が730～880であり、このときの黄化籾割合は20～80%である(図6、図7)。
6. 薄茶米の発生は出穂後の積算気温1,150を超えると急激に増加する(図8)。
7. 玄米収量は出穂後の積算気温970以上になると最高収量の90%以上で推移し、このときの黄化籾割合は90%である(図7、図9、図10)。
8. 以上より、あさひの夢の移植時期は、高温登熟による背白粒の発生を避けるため、出穂後20日間の平均気温が26.5を下回る時期とする。また刈取時期は出穂後の積算気温が730～880になる時期であり、黄化籾割合は20～80%である。

[成果の活用面・留意点]

1. 成果を水稲適作期生育予測システムに組み込みシステムの充実を図る。
2. 県の栽培指針の基礎資料として活用される。

〔 具体的データ 〕

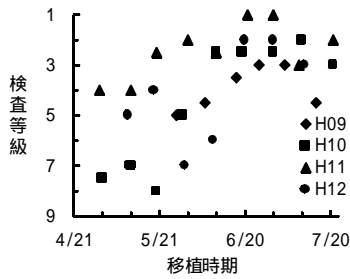


図1 移植時期と検査等級

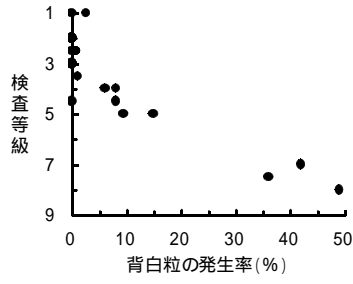


図2 背白粒の発生率と検査等級

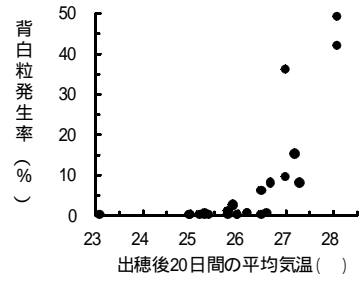


図3 出穂後20日間の平均気温と背白粒の発生率

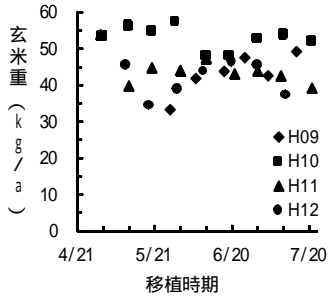


図4 移植時期と玄米重

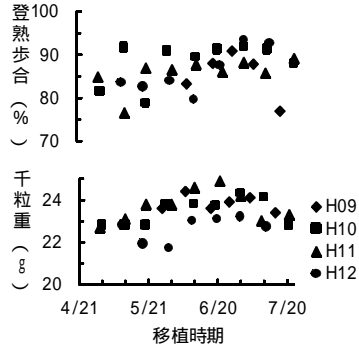


図5 移植時期と登熟歩合、干粒重

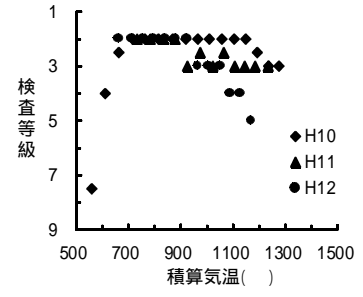


図6 出穂後の積算気温と検査等級

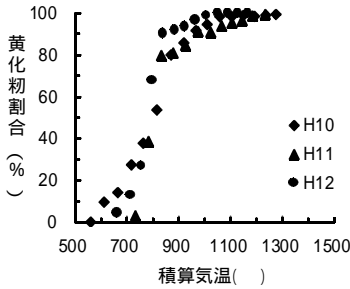


図7 出穂後の積算気温と黄化初割合

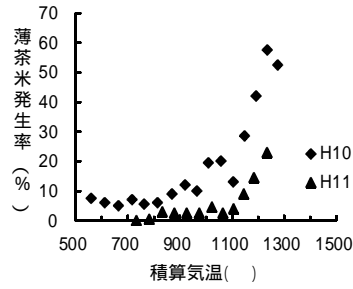


図8 出穂後の積算気温と薄茶米の発生

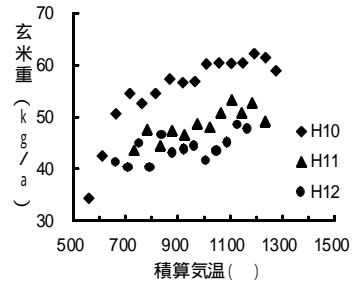


図9 出穂後の積算気温と玄米重

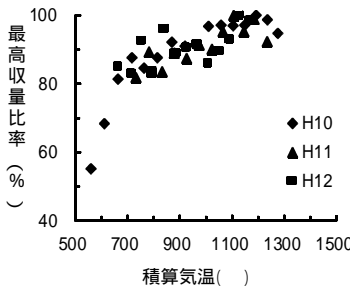


図10 出穂後の積算気温と最高収量比率

研究課題名 : 良食味の安定生産技術確立試験

予算区分 : 県単

研究期間 : 平成12年度(平成9~12年)

研究担当者 : 大脇淳一、井手宏和、前田英俊、寺井利久

既発表論文等 : なし